

平成 19 年度交通安全教育推進事業（調査研究事業）

中学校における交通安全教育実践事例集

平成 20 年 2 月

文部科学省 スポーツ・青少年局

目次

第1章 事業の目的、研究テーマ等

- 1 事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 研究テーマ、研究主題等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 中学校における交通安全教育実践事例

- 1 研究主題① [中学校における保健体育、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間など学校教育活動の各領域の有機的な連携を図った指導計画とその具体的指導の在り方]
 - 神奈川県南足柄市立足柄台中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 佐賀県唐津市立名護屋中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 石川県金沢市立緑中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 宮崎県国富町立八代中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 研究主題①に関する実践活動の在り方・・・・・・・・ 16
- 2 研究主題② [中学校における自転車の乗用に必要な交通ルールや交通マナーの習得のための学校と地域の連携の在り方を踏まえた指導内容及び指導方法]
 - 埼玉県小鹿野町立三田川中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - 千葉県茂原市立早野中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - 大分県大分市立植田西中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - 研究主題②に関する実践活動の在り方・・・・・・・・ 30
- 3 研究主題③ [中学校における交通事故の責任(飲酒運転等の危険運転を含む)や補償に関する指導内容及び指導方法]
 - 奈良県田原本町立田原本中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
 - 愛知県蒲郡市立形原中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
 - 研究主題③に関する実践活動の在り方・・・・・・・・ 40
- 4 研究主題④ [中学校における交通事故発生時の応急手当(心肺蘇生法など)の技能及び事後措置に関する指導内容及び指導方法]
 - 兵庫県香美町立射添中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
 - 北海道登別市立鷺別中学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
 - 研究主題④に関する実践活動の在り方・・・・・・・・ 50

第3章 中学校における効果的な交通安全教育の課題と提言・・・・・・・・ 53

第1章 事業の目的、研究テーマ等

1 事業の目的

近年、中学生の交通事故による死者数には著しい変化は見られないものの、依然として多くの生徒が交通事故に遭い、特に昨今では、自転車乗用中に歩行者と事故になる例などが目立つことから、学校における交通安全教育の充実についての社会的要請が高まっている。

しかしながら、「幼稚園・小学校・中学校における交通安全教育等に関する実態調査報告書」（平成17年3月文部科学省スポーツ・青少年局）によれば、中学校における交通安全指導は、学校行事等で取り組まれているが十分な実施状況に至っていない。

このような状況から、過去に実施した「小学校における交通安全教育実践事例集」（平成16年3月文部科学省スポーツ・青少年局）刊行の実績を踏まえながら、全国の中学校で実施された特色ある交通安全指導の実践事例を収集して調査研究を行い、その成果として学校現場で活用しやすく編集等を行った「中学校における交通安全教育実践事例集」を作成・配布することにより、中学校における交通安全教育の充実に資することとした。

2 研究テーマ、研究主題等

(1) 研究テーマ

生徒の実態や地域性に即した中学校における実践的な交通安全教育の在り方や、指導効果を高めるための具体的な指導内容や指導方法の研究

[研究テーマ設定の理由]

中学生は、交通行動が活発となりその行動範囲も広範囲に及ぶようになることから、交通事故に遭う危険性も高くなる。そのため、交通社会人としての役割や責任についての理解を深めさせ、中学生として自ら積極的に交通安全を図ることのできる態度、能力を育成することが重要であり、昨今の交通事故状況等もかんがみて、中学校の交通安全指導において中心となる内容を研究主題とした。そこで、研究内容について次の4つの具体的な研究主題とその設定理由に沿って調査研究に取り組むこととした。

(2) 研究主題と主題設定の理由

ア 研究主題①：中学校における保健体育、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間など学校教育活動の各領域の有機的な連携を図った指導計画とその具体的指導の在り方

[主題設定の理由]

- ・ 学習指導要領には、学校における交通安全教育は、各教科・科目や特別活動等学校教育全体を通じて行なうように位置付けられているが、具体的にそれぞれの領域における指導や相互に連携を図った指導の効果をどう高められるかが課題である。
- ・ 学校全体を通じて行なう交通安全教育はそれぞれの領域の連携を図るために指導計画を立て、指導内容や指導の機会等を位置付け、共通理解のもとに推進することが重要であるが、どのように位置付けて推進を図るかが課題である。

イ 研究主題②：中学校における自転車の乗用に必要な交通ルールや交通マナーの習得のための学校と地域の連携の在り方を踏まえた指導内容及び指導方法

[主題設定の理由]

- ・ 中学生になって初めて自転車通学をすることになる生徒が多く、遠くまで出かける機会も多くなることから、自転車を安全に利用する能力の向上をどのように図るかが課題である。

- ・ 自転車に関わる交通事故の多くは交通に関する規範意識や交通マナーの低下が関係しているといわれていることから、こうした事柄に関する指導をどのように効果的に行うかが課題である。
- ・ 自転車利用の在り方を含めて、効果的な交通安全教育の推進には、学校と保護者の連携はもとより、地域社会との連携が重要であることから、こうした連携の在り方が課題である。

ウ 研究主題③：中学校における交通事故の責任（飲酒運転等の危険運転を含む）や補償に関する指導内容及び指導方法

[主題設定の理由]

- ・ 中学生は交通行動範囲が広範囲となり活発に活動する年代である。また、運転免許取得可能年齢も近づいていることから、運転免許取得前としての交通安全教育も重視されており、交通社会人としての責任感をどのように育成するかが課題である。
- ・ 交通事故と責任に関する指導内容は、具体的で臨場感のある深刻な内容であり、身近な問題でもあることから、指導上取り上げられる頻度の高い題材でもある。また、近年、飲酒運転による悲惨な事故が相次いで発生し、危険運転致死傷罪が新設されるなど、飲酒運転根絶の社会的機運もあり、学校教育の早い段階からこうした行為の危険性や反社会性についての指導が要請されるとともに、どのように指導するかが課題である。

エ 研究主題④：中学校における交通事故発生時の応急手当（心肺蘇生法など）の技能及び事後措置に関する指導内容及び指導方法

[主題設定の理由]

- ・ 交通事故や心臓疾患等の要因が原因で心臓停止等で突然倒れた人の救命率の向上を図ることは重要な社会的要請であることから、中学生でも、自らの健康・安全を図るだけでなく、事故現場等に居合わせた場合に適切な応急手当等ができるようにすることが課題である。
- ・ 中学校の教科「保健体育」には、人工呼吸を含めた応急手当の指導が位置付けられているが、最近一般市民によるAED（自動体外式除細動器：Automated External Defibrillator）の使用が許可されたことから、学校における指導内容としても重要視されるようになった。そこで、中学生においても、可能な範囲でAEDと心肺蘇生法を組み合わせた応急手当等についての指導をどのように行なうかが課題である。